

1984年

国際ペン東京大会「核状況下における文学―なぜわれわれは書くのか」に出席した巴金氏ら中国代表団来日への協力、時を同じくして周揚文連主席一行の招請、さらに朱穆之文化相一行の招請など中国文化界要人の来日が続いた。年末、協会の創立に参画し、長年にわたり交流の発展に尽くした宮川寅雄理事長が急逝。中国は建国三十五周年を迎え、胡耀邦総書記が提唱した北京での日中青年友好交流に三千人訪中、中曽根首相訪中など、日中間の往来は各分野で一層活発になっていった。さらに中国はこの年、ロスアンゼルス五輪に初参加、英国との九七年香港復帰合意文書に調印。



新疆ウイグル自治区を訪問し、北京に戻った井上靖団長ら日中文化交流協会代表団一行と会見する胡耀邦総書記(左)

一九八四年十一月十八日 北京・中南海

（八四年の主な交流）

◎1月 「中国内蒙古北方騎馬民族文物展」(当協会、日本経済新聞社など主催) 大阪・高島屋で開幕、同展はさらに京都、名古屋、北九州で開催。第一回日中テレビ祭を北京で開催、日本側代表団(牛山純一団長・日本映像カルチャーセンター常務理事) 訪中、同テレビ祭はその後十年間、毎年交互に日中両国で開催。当協会も協力。

◎2月 中国ツル類生態考察団(楊純団長) 来日。

◎3月 古代史シンポジウム「三角縁神獣鏡の謎」東京で開催、主催・全日空、朝日新聞社、当協会、講師として中国科学院考古研究所の王仲殊所長、徐萍芳、楊泓の諸氏が来日。日大三高吹奏楽部訪中(飯島生福団長 訪中。日本「第三回中国書道研究会」訪中(浅見寛洞団長、青木香流、泉原寿石、飯島太久磨、新井光風、高橋静豪、中野暁、柴田侑堂、赤平泰処、大野宜白、依田祥堂、大橋南郭、野崎嶽南、井上星峰、小伏竹村、小伏竹扇ら諸氏) 訪中。渡辺寒鷗書百絶詩書展開幕式参加訪中(渡辺寒鷗団長) 訪中。中島京子夫人一行(中島京子、白土吾夫、佐藤純子の諸氏) 訪中。作家の水上勉氏(当協会代表理事) が木村美智子事務局次長を伴い訪中、北京で中央戯劇学院による話劇「飢餓海峡」(水上勉作) 観劇。



「同じ年齢どうし、これからのいい仕事をしましょう」と佐多稲子氏(中央)に語る巴金氏(右)。宮川寅雄理事長(左)と――一九八四年五月十一日 東京・歓迎レセプション



国際ペン大会に出席した巴金氏に、草野心平氏は「最初にお会いしたのは1956年、上海でした」と語り、再会を喜びあった

――1984年5月18日 東京



中国人民対外友好協会代表団団長として来日した著名な社会学者費孝通氏(左)は、友人の中根千枝氏(右)の案内で金沢の農漁村を視察した

――1984年12月2日 東京

◎4月 中国書法家代表団(舒同団長、黄苗子副団長) 来日。中日友好代表団(王震団長、孫平化副団長) 当協会など日中友好六団体の招きで来日。日本美術家訪中団(高山辰雄団長、松尾敏男副団長、加倉井和夫、岩澤重夫、村木明、大矢紀、小暮貴代の諸氏) 訪中。日本印刷学会代表団(井上英一団長) 訪中。中国文学芸術界連合会代表団(江曉天団長、賈克副団長、夏義奎、王玉笑、周培武、古麗巴哈、徐耀庭の諸氏) 来日。出光美術館代表団(三上次男、出光昭介、末松良介、阿久井長則、木村美智子、賀利の諸氏) 訪中。

◎5月 周揚中国文学芸術界連合会主席一行(周揚、蘇靈揚、周密、周斌の諸氏) 来日。第四十七回国際ペン東京大会出席のため、巴金中国ペンセンター会長一行(巴金、李小林、徐鈴、陳喜儒の諸氏)、中国ペンセンター(劉白羽、朱子奇、鄧友梅、李芒らの諸氏)、上海(柯靈、杜宣両氏)、広州(黄秋耘氏ら) 各ペンセンターの代表も来日。同大会開会式には周揚主席も出席。当協会は東京で周揚主席一行・巴金会長一行・中国文連代表団一行の歓迎レセプションを開催。日本エネルギー・石化炭液化学工業代表団(水科篤郎総団長、山本武彦、坪村宏、由井照二、佐藤正、大内公耳、加部利明、大岡五三實、川瀬修、戸室道子の諸氏) 訪中。

◎6月 中国文連代表団一行の歓迎レセプションを開催。日本エネルギー・石化炭液化学工業代表団(水科篤郎総団長、山本武彦、坪村宏、由井照二、佐藤正、大内公耳、加部利明、大岡五三實、川瀬修、戸室道子の諸氏) 訪中。



朱穆之文化相(右三)を訪ねた井上靖団長(左三)、井上ふみ夫人(右二)、竹西寛子(左一)、大江健三郎(右一)、吉永小百合(左二)の諸氏ら日中文化交流協会代表団一行

—1984年11月16日 北京

古代史シンポジウム「三角縁神獸鏡の謎」が、日中文化交流協会、全日空、朝日新聞社の主催で開かれた。発言する王仲殊中国社会科学院考古研究所所長(左一)



—一九八四年三月十七日 東京

◎6月 朱穆之文化相一行(朱穆之文化相、周蘿、章金樹、馮柏泉、周東亮の諸氏)外務省と当協会の招きで来日。重要無形文化財保持者・歌舞伎俳優の中村歌右衛門氏が、中村梅玉(当時は福助)、中村魁春(当時は松江)、大久保久雄、中野暁の諸氏を伴い、訪中。日本青少年研究所代表団(千石保団長、尾中郁夫、中村英郎、門馬晋、亀田温子、原信之の諸氏)訪中。中国美術家代表団(蔡若虹団長、遲軻、李樹声、丁義元、陶勤の諸氏)来日。
◎7月 シルクロード音楽取材のため 團伊玖磨氏、林輝氏と訪中。
◎8月 「敦煌を訪ねる会」訪中団(加藤周一、陳舜臣、横川健らの諸氏)訪中。日本「中国古陶磁研究者」訪中団(圓城寺次郎団長、林屋晴三副団長、今泉今右衛門、酒井田柿右衛門、中島宏

湯木義夫、木村美智子の諸氏)訪中。日本美術家友好訪中団(下保昭団長、村木明副団長、久保嶺爾、北村正己、鎌田幸一、村木清、大和利朗、大隅昭子、小暮貴代の諸氏)訪中。松山市中学生訪中団(明比文治団長)訪中。
◎9月 中国出版代表団(劉果団長、趙家璧顧問、張雲生、馬合木提、艾合買提、龍文善、万大鷗の諸氏)来日。「中国陶俑の美」展を名古屋市博物館で開催、当協会、朝日新聞社等が主催、開幕式に同展代表団(呂済民団長、陳全方、金楓、張庸、方鄂秦、李詩桂、巨東梅の諸氏)来日。同展はその後福岡、京都、東京で開催。中国体育施設考察団(李寿榮団長)来日。三千人日中青年友好交流参加日中文化交流協会

青年代表団(尾崎秀樹団長、立松和平副団長、清原康正、高橋克彦、鈴木貞美、榎山美二夫、武藏川晃偉、藤島利彰、中島梓、井沢元彦、杉浦日向子、戸室道子、小暮貴代の諸氏および当協会関係の各自自治体推薦による青年代表)訪中。中国科学院科学データベース設計考察団(沈迪飛団長、王海華、銭文志、張松林の諸氏)来日。
◎10月 中国印刷技術協会代表団(王益団長)来日。日本書道家代表団(梅舒適団長、田中凍雲秘書長、平田華邑、青木香流、谷村憲斎、稲村雲洞、飯島太久磨、中野暁の諸氏)訪中。中国中央楽団を指揮するため、團伊玖磨氏が久保田播氏と訪中。日本民法環境保護法学者訪中団(野村好弘団長、浅野直人秘書長、加藤了、高田桂一、桑原昌宏、宮谷俊胤、丸山英気、本田純一、柳憲一郎、小賀野晶一の諸氏)訪中。日本義肢・補装具研究者訪中団(浅井一郎団長)訪中。日本「中国曲芸鑑賞」訪中団(岡本文弥団長、戸板康一顧問、川上桂司秘書長らの諸氏)訪中。日本文化界代表団(木下順二団長、郡司正勝、高橋玄洋、宮岸泰治、藤久ミネ、古井由吉、水原英子、横川健の諸氏)訪中。
◎11月 日中文化交流協会代表団(井上靖団長、井上ふみ、白土吾夫秘書長、鈴木治雄、鈴木糸、竹西寛子、大江健三郎、吉永小百合、佐藤純子の諸氏)訪中。中国演劇家代表団(黄佐臨団長、呉雪顧問、蘇平秘書長、于雁軍、王貴、耿震、劉法魯の諸氏)来日。日本演劇家訪中団(杉村春子団長、森秀男、山

根淑子、八木終一郎、廓正子、石澤秀二、滝田裕介、内山鶉、松下砂稚子、稲野和子、原信之の諸氏)訪中。日本経済界代表団(中田乙一団長・三菱地所会長、増澤高雄日本長期信用銀行専務、牛島俊郎三菱地所常務、河相誠一郎鹿島建設常務、国広敏郎日本電気常務、田上隆山種産業副会長、永松幹男三井不動産開発企画部長、木村美智子、安生徹の諸氏)訪中。
◎12月 中国人民対外友好協会代表団(費孝通団長、張君秋、謝鉄驪、浩然、潘乃谷、張和平、劉子敬、邵維堅の諸氏)来日。十二月二十五日宮川寅雄理事長逝去。

協会創立に参画、以来二十八年、協会とともに風波を乗り越え、理事長として活躍されてきた宮川氏の逝去は、晴天の霹靂だった。クリスマスイヴの夜、事務局のささやかな忘年会に顔を見せ、行きつけの居酒屋に一同を誘って、それぞれに歌を所望し、自らも大正時代の歌をうたった。悲報はその翌日のこと。氏の功勞に報い、協会は東京・青山で協会葬を営んだ。井上靖葬儀委員長は告別の辞で、氏の魅力を「その風雪の日々に鍛えた、若くして強靱な精神を、あの温容に秘めておられた所があった」と述べた。「風雪の日々」が、戦前の徴兵忌避や治安維持法による獄中八年を指すことを、知っている人も、知らない人も、深い悲しみを抱いて献花の列が続いた……。

(九十九)